

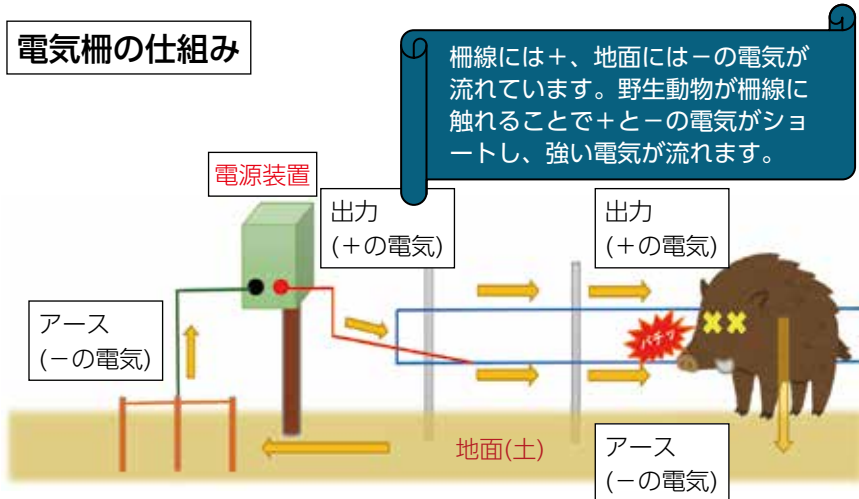


鳥獣被害を防ぐために 電気柵は適切に設置しましょう

問 農林課 林政鳥獣対策係 (☎内線2618)

電気柵は、適切に設置すれば野生動物による被害にとても効果のある設備です。その反面、設置方法を間違ったり日常の維持管理をおろそかにしたりすると、その効果を発揮できませんので、適切な設置をお願いします。電気柵は「柵に触れると痛い！危ない！」と野生動物に教えることで被害を防ぐ心理的な柵です。きちんと電気が流れていれば大きな効果がありますが、流れていなければ意味がありません。設置後は必ず、24時間電気を流しましょう。

電気柵の仕組み



■動物に合わせた資材購入を

電気柵の本体(電源装置)は、設置する土地の広さに対し、4000V以上の電圧を維持できる機種を購入しましょう(4000V未満では動物が痛みを感じず、効果がありません)。複数の動物が出没している場合は、すべての動物に対応できるように設置する必要があります。

■安全に使用するための注意点

獣種	段数	線の間隔	支柱の間隔
イノシシ	2段以上	20cm	4m以内
小動物	4段以上	10~15cm	
シカ	5段以上	20~40cm	

※電気柵本器に使われる電源は、規模と用途により電池、バッテリー、ソーラーパネルなどがあります。なお、家庭用のコンセントから直接柵線に電気を流すことは、法律で禁止されています。電源を取る場合、必ず電気柵と併せて購入してください。また、「危険表示板」を必ず設置しましょう。

電気柵は、設置して終わりではなく、設置後の日常管理が重要です。被害防止効果を最大限発揮するため、以下の項目を定期的に確認し、維持管理に努めましょう。

■電圧のチェックをしましょう

定期的に電圧のチェックを行い、4000V以上が維持されていることを確認しましょう。電圧が低下している場合、バッテリーの性能低下や草などの接触による漏電が考えられます。

■伸びた草や落枝を除去しましょう

電気柵の周囲で草や枝などが柵線(通電ワイヤー)に接触していないか確認しましょう。接触した状態が続くと、バッテリーの消耗も早くなり、電圧が低下します。

■バッテリーの残量を確認しましょう

電源装置の規格や電気柵の設置距離にもよりますが、1~2か月で残量がなくなるので定期的に交換しましょう。ソーラー式の場合は、雨や曇りの日が続くと発電できない状態が続くので注意が必要です。

■電源の入れ忘れに注意しましょう

作業のため一時的にスイッチを切った後、入れ忘れることがあります。電源が入っていない電気柵に侵入防止効果はないので、確実にスイッチを入れる習慣をつけましょう。